

令和 年 月 日

京丹後市長 中山 泰 様

京丹後市子ども未来まちづくり審議会

会長 片西 登

答申書

令和7年11月18日付け7こ未第2058号により諮問のありました「都市拠点公共施設整備に関する議会審議の結果及び市民広聴会の意見等を踏まえたより良い子育て支援拠点等のあり方」について、本審議会で慎重かつ様々な観点から審議した結果、別紙のとおり答申します。

1 はじめに

本審議会では、令和3年6月14日に今後の子育て支援拠点等のあり方について市長から諮問を受け、令和3年10月22日に「天候や曜日になるべく左右されることなく、様々な人と交流しながら遊ぶことができ、子育てに関する相談等も可能な子育て支援拠点をあらゆる市域から利用しやすい市の中心地に整備することが望まれる」旨の答申を行いました。

その後、市は京丹後市都市拠点構想及び都市拠点公共施設整備基本計画等において、本審議会の答申を踏まえた子育て支援拠点の整備方針を示し、市議会（令和7年6月定例会）に都市拠点公共施設整備に係る関連予算を提案しましたが、継続審議の末、9月定例会で否決となりました。

これを受け、市主催による市民広聴会が開催され、市議会における審議と同様、その必要性への賛同や早期実現を望む切実な声が上がる一方、多額の事業費に対する財政的な懸念や、既存施設を活用した分散型整備との比較検討、施設の運営手法や機能等について様々な意見が寄せられたものと聞かせていただいています。

本審議会では、京丹後市長からの諮問を受け、この間の市議会における審議や市民広聴会における多様な意見を真摯に受け止めたうえで、子育て環境の更なる充実を図る観点から、改めて「今後のより良い子育て支援拠点等のあり方」について審議を重ね、その内容をとりまとめましたので、ここに答申します。

2 審議の結果

（1）子育て支援拠点の必要性

少子化や核家族化が進行する中にあって、身近な地域での子育て支援機能のみならず、天候や曜日になるべく左右されることなく、様々な人と交流しながら遊ぶことができ、子育てに関する相談等も可能な子育て支援拠点のニーズ及び必要性は高く、あらゆる市域から利用しやすい市の中心地に整備されることが望まれます。

※議会における審議や市民広聴会等の意見を踏まえ、新たに盛り込むべきことはないか

（2）子育て支援拠点の機能

この施設に備えるべき機能については、幅広い年代の子どもや親子などが遊べるスペースを中心としながら、子育てに関する相談窓口やカフェを併設するなど、付加価値を加えることが望まれるとの意見がありました。また、子育て世代等、利用者の利便性や整備効果を高めることを考慮した場合、図書館や商業施設など、他の機能との「複合型施設」とすることにも留意すべきと考えられます。

※議会における審議や市民広聴会等の意見を踏まえ、新たに盛り込むべきことはないか

（3）既存施設を活用した小規模・分散型整備について

※「小規模・分散型の整備で十分ではないか」という意見に対する見解

（4）子育て支援拠点整備までの対応

子育て支援拠点は、できれば早急な整備を望むのですが、整備には一定の年月を要するものであり、現在の子育て世帯への早急な支援も望まれることから、当面の対応として、市の中心部に、既存施設を活用した代替機能（子育て支援センターなど）が必要と考えられます。

一方で、身近な地域での子育てサロンや公民館等の役割も重要との意見も多くあり、現在進められている「新たな地域コミュニティ」の中に子育て支援機能を位置付けることも含め、地域で子どもを見守り、地域全体で子育てを支援していく必要性も改めて再認識したところです。

※議会における審議や市民広聴会等の意見を踏まえ、新たに盛り込むべきことはないか

3 おわりに

京丹後市は、田園風景が広がりゆったりとした時間が流れる空間に、以前より減ってきてはいるものの祭りや地域行事など隣近所の人々とのつながりもあり、子どもを育てやすい環境が残っているといえます。市では、子育て支援策として、保育所・こども園や放課後児童クラブにおける「待機児童ゼロ」の継続をはじめ、子育て世帯に寄り添った各種施策に取り組まれており、子育てサービスの向上や拡充についての期待が膨らみます。

今後、今回の答申が実行され、子育て支援が更に充実し「子育て環境日本一のまち」を実感していただけるまちとなることを期待しています。

※この間の経過を踏まえ、審議会として今後の子育て支援拠点等のあり方について
審議した結果、改めて市に望むこと、期待することは何か